

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算 支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

事業名 【新】木曽川中流域を中心とした体験型広域観光づくり推進補助金（R8分）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部 観光資源活用課 観光コンテンツ係 電話番号：058-272-1111(内3933)

E-mail：c11337@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 10,000 千円 (現計予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	10,000	5,000	0	0	0	0	0	0	5,000
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

「木曽川中流域観光振興協議会」では、木曽川の豊かな自然や歴史・文化などの地域資源を活用したプロモーションや体験型コンテンツの実証を兼ねた賑わい創出イベントの開催等を実施してきた。一方で、木曽川のポテンシャルを活かすには体験型観光やアクティビティに力を入れる必要がある。

そこで、木曽川中流域エリア中心に、地域関係者が一体となった観光・文化・スポーツが融合した体験型広域観光づくりに資する取組を重点的に支援することで、この地域への観光誘客を図り、ひいては県内全域への周遊滞在の促進、観光消費拡大を図り、「人が集まる岐阜県」の実現を目指す。

(2) 事業内容

■木曽川中流域観光資源魅力向上推進事業（10,000千円）

木曽川中流域エリア中心に、地域関係者が一体となった観光・文化・スポーツが融合した体験型広域観光づくりにより、この地域への観光誘客を図り、ひいては県内全域への周遊滞在の促進、観光消費拡大に資する取組への助成

【補助対象者】

- ① 市町村
- ② 観光協会等（観光協会、観光振興に取り組んでいる団体）
- ③ 日本版DMO等
※観光庁の「日本版DMO」登録法人、「日本版DMO候補法人」登録法人、
「日本版DMO候補法人」登録申請予定の法人
- ④ 次に掲げる者のいずれかで構成する観光関係協議会等
 - (1) 複数の市町村
 - (2) 市町村及び観光関係事業者
 - (3) 複数の観光関係事業者
(ただし、市町村から助成又はそれと同等の支援を受けていること。)
 - (4) その他知事が補助事業者として特に認める者

(3) 県負担・補助率の考え方

- 木曾川中流域を中心とした体験型広域観光づくり補助金
補助率：1／2、上限：500万円

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	10,000	
合計	10,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略
 - 3 地域にあるれる魅力と活力づくり
 - (2) 次世代を見据えた産業の振興
 - ④世界から選ばれる持続可能な観光地域づくり

岐阜県経済・雇用再生戦略

- 6 世界に選ばれる持続可能な観光地域づくりプロジェクト
＜サステイナブル・ツーリズムの推進＞
 - (1) 地域資源の保全・活用による観光地域づくり

(2) 国・他県の状況

岐阜県独自の事業である

(3) 後年度の財政負担

県内全域にわたる持続可能な観光地域づくりの一環であり、今後も継続する。

(4) 事業主体及びその妥当性

複数の事業者による地域一体的な取組を支援するものであり、妥当

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	木曽川中流域を中心とした体験型広域観光づくり推進補助金
補助事業者 (団体)	市町村、観光協会、観光関係協議会、観光事業者
補助事業の概要	木曽川中流域エリア中心に、地域関係者が一体となった観光・文化・スポーツが融合した体験型広域観光づくりにより、特定の地域への観光客集中を緩和や県内全域への周遊滞在の促進、観光消費拡大に資する取組への助成
補助率・補助単価等	定率 (内容) 補助率1/2、上限5,000千円 (理由) 木曽川中流域エリアを中心とした地域関係者が一体となった観光・文化・スポーツが融合した体験型広域観光づくりを促進するため、ストーリーで繋ぐ岐阜県観光推進補助金と同等の補助率・上限額を設定
補助効果	特定地域への観光客集中を緩和や県内全域への周遊滞在の促進、観光消費拡大
終期の設定	終期 令和10年度

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>木曽川中流域エリア中心に、観光・文化・スポーツが融合した体験型広域観光づくりを推進することで、特定の地域への観光客集中を緩和し、県内全域への周遊滞在の促進、観光消費拡大を図り、「人が集まる岐阜県」の実現を目指す。</p>
--

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R5年度 実績	R6年度 目標	R7年度 目標	終期目標 (R10)	
					達成率	
①観光消費額	/	3,044億円	3,100億円	3,300億円	(R9) 3,600億円	84.6%
②観光入込客数 (実数)	/	4,365万人	4,800万人	4,900万人	(R9) 5,300万人	82.4%

補助金交付実績 (単位：千円)	R3年度	R4年度	R5年度
	/	/	/

(これまでの取組内容と成果)

令和3年度	
令和4年度	
令和5年度	

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>特定の地域への観光客集中を緩和し、県内全域への周遊滞在の促進、観光消費拡大に繋げるため、木曾川中流域を中心に育まれつつある観光・文化・スポーツが融合した体験型観光を推進する必要がある。</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2:期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1:期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0:ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価)	
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている</p>	
(評価)	

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 特定の地域への観光客集中を緩和し、県内全域への周遊滞在の促進、観光消費拡大に繋げる</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 木曾川中流域観光振興協議会発足から4年が経過し、今後は、市町自らによる地域経営体制づくりと、実行に向けた計画づくりが求められるため、引き続き支援していく。</p>
